文部科学省認可通信教育

きんぽう

放送大学熊本学習センター

秋号

第109号
2026年11月発行

Essay

新しい文化財レスキュー活動のスタートラインに立って



放送大学熊本学習センター客員教員　三澤　純

2016年４月に発災した熊本地震から10年目の今年７月、再び大地震が熊本地域で起こりました。犠牲となられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。

私は、前回の地震直後に結成した「熊本被災史料レスキューネットワーク」の事務局長を務めています。私たちは、被災した文化財のうち、主に古文書が廃棄・焼却・売却されることを防ぎ、古文書を所蔵されているお宅の生活再建が実現されるまで、古文書をお預かりする活動を行っています。しかし、ただお預かりするだけではありません。お預かりしている間に、一点ごとの目録を作成し、写真撮影を行い、その古文書の付加価値を高めてお返しするようにしています。古文書は、その大部分が未指定文化財であり、所蔵者がその価値を十分に理解されていない場合、災害が発生した時に真っ先に処分の対象となってしまうからです。

2024年１月１日に起きた能登半島地震をきっかけに、文化庁内に文化財防災センター（文防）が設置されましたが、その文防の方たちが熊本入りされたのは８月初旬、私たちと最初の会議を行ったのは８月14日でした。

その後、国・県を主軸とした入念な予備調査が行われ、貴重な文化財が次々と県の施設に運び込まれました。そして10月に入って、それらの本格的な調査・保存活動が開始されました。私も10月に一度だけではありますが、その活動に加わり、八代・松浜軒の文化財の整理作業に従事しました。

こうした活動は地味ですが、その調査の中から新たな歴史的発見が生まれることが多々あります。前回の地震の時、私自身が直接関わった事例を一件だけ紹介すれば、未整理・未解読の庄屋文書の中から、国指定史跡・井寺古墳（上益城郡嘉島町）が発見された当時の記録が見つかりました。この記録のおかげで、諸説が入り乱れていた井寺古墳発見の実情が初めて明らかとなり、考古学関係者に大変感謝されることになりました。

これから本格化する県南地域を中心とするレスキュー活動からも、大きな新発見が生まれることになるでしょう。放送大学で日々、熱心に学んでおられる皆さんには、今後の文化財レスキュー活動の展開過程を注視していただき、この活動を物心両面から支援していただきたいと思います。



contents

巻頭エッセイ
「新しい文化財レスキュー活動のスタートラインに立って」‥ 1
2026年度1学期卒業証書・学位記授与式について ‥‥‥ 2
2026年2学期入学者の集いについて ‥‥‥‥‥‥‥‥ 5
客員教員新任の挨拶 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 5
2026年度学生研修旅行報告 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 6
公開講演会のお知らせ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 7
事務室からのお知らせ ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8

リンクボタン：クリックすると関連サイトのページにジャンプします（PDF限定）

2026年度第1学期卒業証書・学位授与式について

2026年9月26日（土）に熊本学習センター大講義室において「2026年度第1学期卒業証書・学位授与式」を執り行いました。当日は教養学部９名の卒業生が出席され、磯部博志所長によりお一人ずつに学位記が授与されました。



2026年度 第１学期卒業生

教養学部

生活と福祉コース	５名
心理と教育コース	９名
社会と産業コース	３名
人間と文化コース	２名
情報コース	３名
自然と環境コース	２名
（合計	２4名）



磯部所長祝辞



卒業生代表答辞



REPORT

寄附金を活用してガウンを製作する「アカデミックガウンプロジェクト」により、今学期より学習センターでも卒業生の方が、**アカデミックガウン**を着て記念撮影が出来るようになりました。卒業という大事な節目がより特別な日になりました。

ガウンを着た卒業生の感想を紹介します。

「思いがけなく、とてもいい記念になりました！」

「孫に見せるいい写真が撮れました！！」

Congratulations

学位記授与式 答辞

厳しい暑さも次第に和らぎ、朝夕には秋の気配を感じる季節となりました。このような佳き日に、私たち卒業生のために学位記授与式を設けていただきましたことを、卒業生を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。また、先生方をはじめ、ご来賓の皆様、関係者の皆様にご臨席を賜り、こうして卒業の日を迎えられますことを、卒業生一同、心より嬉しく思っております。

さて、私が放送大学への入学を決めたきっかけは、看護学士取得に必要な単位を積み上げるためでした。看護師から教員へ転身して数年が経ち、看護を教える中で、改めて自分自身もきちんと学び直したいという思いを抱くようになりました。学習を進める中では、これまで知っていた知識を改めて見つめ直すだけでなく、新たな知識や考え方に触れることで、物事を多角的に捉える視点が広がっていきました。 一方で、仕事や子育てをしながら勉強することは、決して容易なことではありませんでした。日々の生活に追われ、授業の科目登録を忘れてしまい、授業を受けられなかったこともあれば、単位認定試験を忘れてしまい、再試験を受けたこともあります。それでも、学ぶことは楽しく、新たな発見や気づきが、日々の励みとなりました。

また、面接授業を通して多くの仲間と出会うことができました。年代もこれまでの経験も異なる仲間たちと、ときには同じテーマについて意見を交わし、ときにはそれぞれの経験を語り合う中で、様々な考え方や価値観に触れることができました。これまでの人生経験をもとに語られる言葉には、一つ一つに重みがあり、自分にはなかった視点に触れるたび、多くの刺激を受けました。一人で学ぶことの多い通信制大学だからこそ、直接顔を合わせて学ぶ仲間との時間は、私にとって大きな支えであり、学び続ける力となりました。

中でも、がん看護や意思決定支援について学んだ授業は、特に心に残っています。看護師としてではなく、一人の学生として先生方の講義を受けることで、看護について改めて深く考える機会となりました。医療や看護には、必ずしも一つの正解があるわけではありません。その人がこれまでどのような人生を歩み、何を大切にしているのかに目を向け、納得できる選択を支え、その人らしい生活へつなげていく。その過程に寄り添うことの大切さを、深く心に刻みました。

長かったようで、振り返ればあっという間の大学生活でした。しかし、学びは卒業とともに終わるものではなく、これからも続いていくものなのだと感じています。これからは、この学びを教員として生徒たちに伝え、一人ひとりが自分なりの看護観を育み、それぞれが思い描く看護師像に向かって歩んでいけるよう、ともに学び、ともに考え、ともに成長していきたいと思います。

最後になりましたが、これまで私たちの学びを支えてくださった先生方、学習センターの職員の皆様、そして、日々の生活の中で支えてくれた家族や周囲の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。放送大学のさらなる発展と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、答辞といたします。

令和8年9月26日

熊本学習センター　卒業生代表

首藤さん

卒業生からのコメント

このたび卒業生の方々からコメントをお寄せいただきましたので、謹んで掲載させていただきます。
卒業生の皆さまの今後のご活躍を心から祈念申し上げます。

大変お世話になりました。お陰様で卒業までくることができました。有難うございました。これからもずーっと学び続けていきたいと思っています。今後共何卒宜しくお願いいたします。

森田さん

おかげさまで2回目の全科履修生を満喫し無事に卒業することが出来ました。スタッフ・学友の皆様に感謝いたします。再入学して、これからも熊本学習センターを自分の居場所とし、 「最善の選択が出来ること」を目指して学びを続けます。今後共よろしく御願いします。

堤さん

学ぶことが、ますます楽しくなっています。これからも、いろいろチャレンジしていきたい！

野村さん

専門学校を卒業して社会人となりました。働いていくうちに、専門分野の学びを深めたい気持ちが強くなり、放送大学に入学しました。個性豊かで専門性溢れる先生たちの授業はとても楽しかったです。自分のペースで学ぶことができ、私にはとてもぴったりでした。ありがとうご ざいました。

山内さん

放送大学にて、2コース目の卒業を迎えることができました。1回目の在学時は、学士の学位と学芸員の資格取得という明確な目標があり、順調に進めることができました。しかし、2コース目の期間中に、県外への引っ越しなど大きな環境の変化が重なりました。そのため、時間的な余裕を失い、一時はモチベーションの低下にも激しく悩まされました。そんな私を支えてくれたのが、面接授業での出会いです。教室で出会った学友たちから、前向きに学ぶ強い刺激をもらい、最後まで持ち堪えることができました。現在は県外に住んでいますが、私の出身地であり、深い縁がある熊本学習センターでこの晴れやかな卒業を迎えられたことは、本当に感慨深く思います。支えてくれたすべての人と環境に、心から感謝しています。

長さん

この度は卒業させていただきありがとうございます。全科履修の卒業生としてこれまで頑張ってこれたこと、これなかったとこを色々と思い返しながら今を感じています。学生生活の間には父が他界し遠隔地へ何度も往き来し辛いこともありましたがなんとか卒業までくることが出来ました。なかなか思うようにいかないことがありましたが、今はたくさんの授業を学んで知らないことを知ったり、オンラインやライブwebの授業を受けたり面接授業で他の学生の方とお話が出来たり、他で経験出来ないことをすることが出来て喜びに変わりました。 学生生活での学びは今までの問題解決とこれからに活かせるよう努めたいと思います。先生方、大学関係者の方、また、見守って下さった方々本当にありがとうございました☺️

酒井さん

放送大学で学ぶ中で、これまで身につけてきた知識を改めて整理するとともに、新たな視点や考え方を学ぶことができました。特に、自分の専門である看護や福祉について学び直したことで、日々の仕事を振り返り、これまでとは異なる視点から看護を考える機会にもなりました。卒業を迎えた今、達成感とともに、「学ぶことはいつからでも始められる」ということを実感しています。放送大学で得た知識だけでなく、仕事や生活と学習を両立しながら最後までやり遂げた経験も、これからの自分にとって大きな財産になりました。放送大学での学びを、これからの仕事や人生に生かしていきたいです。

S・Mさん

放送大学在籍13年間で4度目の卒業となります。長い学生期間を支援してくれた家族と大学本部と熊本学習センターの方々に感謝いたします。ありがとうございました。

S・Hさん

私にもできました。（卒業が）あなたにもきっとできます。

S・Tさん

学びは、生きるための知識であり、学びは人を高めるものだと思います。

M・Yさん

新入生
40名参加

2026年度第２学期
入学者の集いについて

2026年10月10日（土）に熊本学習センター大講義室において「2026年度第2学期入学者の集い」と「新入生ガイダンス」を執り行い、新入生40人が参加しました。新入学生ガイダンスで学習の流れなどの説明を受けた後、学習センターを見学しました。



磯部所長祝辞


岩永学長のメッセージを視聴する入学生

Congratulations

客員教員　新任の挨拶

REPORT

熊本大学医学部保健学科の金森弓枝先生が、2026年度7月1日に熊本学習センターの客員教員として着任されました。



金森（かなもり）　弓枝（ゆみえ）　先生

熊本大学　医学部保健学科講師
専門：公衆衛生看護学、地域看護学

専門は、公衆衛生看護学、地域看護学です。主に、地域における高齢者保健活動について研究しています。現在、我が国では超高齢社会を迎え、地域包括ケアシステムの構築が進んでいます。これは、一人ひとりの自助と地域の互助により、誰もが住み慣れた地域で最期までより良く暮らし続けることの実現を目指すものであり、私は独居高齢者や在宅療養者支援の観点から、本システムに関する研究を続けてきました。例えば、これまでの研究結果から、独居高齢者は地域組織活動に参加することで知的刺激を享受し、メリハリのある生活を送っている可能性を示唆しています。
保健医療福祉の分野や健康づくり、在宅療養などについて興味がある方は、ぜひお声掛けください。皆さんと一緒に、地域で暮らす人々の健康や生活の質について考えていきたいと思います。

Greeting

2026年度
学生研修旅行の報告

地球のエネルギーを学ぶ
・八丁原発電所展示館
・熊本地震 震災
ミュージアムKIOKU

2026年11月5日（木）に18名の学生と職員3名で、大分県玖珠郡九重町にある**八丁原発電所展示館**と南阿蘇にある**熊本地震 震災ミュージアムKIOKU**に行ってきました。

日本最大の地熱発電所である八丁原地熱発電所では、地熱発電の仕組みを学び、気水分離機・冷却塔などを見学をしました。見学後の質問タイムでは参加者の活発な質問と、地学が専門の磯部所長からの説明もあり、大変学びの多い時間になりました。



八丁原発電所展示館


熊本地震 震災ミュージアムKIOKU


ONE PIECE熊本復興プロジェクト
ロビン像が設置


元東海大学：地面の隆起
や亀裂が見学できました




迫力のある蒸気

2016年の熊本地震の記憶や経験をふりかえる熊本地震震災ミュージアムKIOKUでは、記録映像で振り返り、震災遺物の展示や震災遺構の旧東海大学阿蘇校舎を見学し、防災について学びました。

今年7月28日、熊本は再び大地震に見舞われました。当時を振り返るだけでなく、防災について学び、人と自然と共生のあり方について考える良い機会となりました。

参加者の感想より

伊藤さん

八丁原発電所では、発電の大規模なシステムや大地から吹き出る蒸気の迫力に圧倒されました。また熊本地震震災ミュージアムでは、地震の威力をまざまざと目にすることができました。地震の時の自分の体験も思い出して、少々辛くもなりました。

この度の研修旅行では阿蘇くじゅうをめぐり、大地の恵みとその威力を学ぶことができ、とても有意義な経験をすることができました。ありがとうございました。

急停車 鹿の横切り 森に消ゆ

橋本さん

日本最大の地熱発電所で11万キロワットの電気を発電する八丁原発電所は、地熱の力で湧き上がる蒸気や特殊な機械、タービンの回転の音などすさまじく、日常では見ることができない貴重な体験ができました。熊本地震震災ミュージアムKIOKUでは、10年前の熊本地震の脅威を改めて実感しました。明日は我が身と日頃から備えることの大切さ、また災害が起きた際、冷静で正常な判断ができることの大切さを学びました。これからも生かされていることに感謝し、1日1日を大切に生きたいと思いました。貴重な学びを有り難うございました。

桂木さん

熊本地震震災ミュージアムKIOKUの展示とお話。10年前の地震で、ほとんど被害がなかったため、いつ起こるかわからない地震にそなえ枕元に置くべき物など、忘れがちな事を思い出させていただきました。又、ワンピースの像が地震復興支援を目的に作られ一体ずつ、設置場所に理由がこめられていることを始めて知りました。

真開さん

本年度の研修旅行も、センター各位皆様のご尽力と参加学友の皆様のお陰で、実りある楽しい１日と成りました。改めて御礼申し上げます。八丁原発電所は以前より気になっていたのですが、個人ではなかなか行けないので今回行って大変勉強に成りました。また「KIOKU」も綺麗になって初めて訪ね、今年7月の地震も経験した身としては改めて防災の意識を強く持った次第です。折々の磯部所長の解説がとても分かりやすく、難しい仕組みにも理解が進み、放送大学生のスペシャルな利点だと有り難く思いました。発電所も地震ミュージアムも「生きている地球」を実感した１日でした。

平本さん

八丁原発電所での見学では地熱の力で地下から取り出した蒸気でスピン発電機を回してクリーンな発電方法です。火力発電のボイラーの役割を地球が果たしています。熊本震災ミュージアムKIOKUでは、10年前熊本地震で東海大学農学部が震災になった場所で、「自然と共に生きる」を自分の事として考えるという大事な勉強になりました。今回は楽しい研修旅行になり、ありがとうございました。昼食もとても美味しかったです。

松村さん

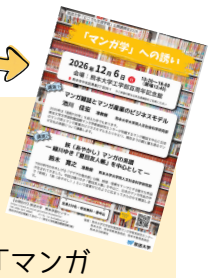
八丁原発電所では、地球の資源を使って発電する施設を見学しました。水と水蒸気に分けて発電する機械は24時間コンピューター制御なのには驚きました。熊本地震ミュージアムでは、壊れた車、建物を見学し、町は再建されているが、記憶を忘れない＝今度地震がきても自分を守る準備をしておくことだと思いました。磯部所長の解説はとても勉強になり、もっと聞きたかったです。お昼ごはんも美味しかったし、お土産も買えて良かったです。また来年も参加したいです。先生方、皆様ありがとうございました。

公開講演会のお知らせ

開催日	演題	講師
11月29日(日)	生成AIで何をどこまでできるようになったか？いっしょに体験しましょう	久保田 真一郎 (熊本大学 准教授)
12月6日(日)	「マンガ学」への誘い	鈴木 寛之 (熊本大学 准教授) 池川 佳宏 (熊本大学 准教授)
1月30日(土)	150年前の熊本の混沌 ―神風連・県民会・熊本バンド―	三澤 純 (熊本大学 教授)
2月20日(土)	心の不思議な世界 ～心理学を学びたいあなたへ～	古賀 香代子 (九州ルーテル学院大学 教授)
2月27日(土)	いま始める、一生続く健康づくり ～人生100年時代を健やかに生きるために～	金森 弓枝 (熊本大学 講師)

公開講演会の詳細とお申込みは、熊本学習センターのウェブサイトをご参照ください。

詳しくはこちら
をクリック



2026年度「どこでも生涯学習」公開講演会のお知らせ

2022年10月、熊本大学に文学部附属国際マンガ学教育研究センターが設置されました。「マンガ学」とはどのような学問でしょうか？
「マンガ学」入門編として、マンガ雑誌を中心としたマンガの歴史、マンガ産業を振り返るマンガ文化の話と、熊本出身の緑川ゆき先生の人気作品『夏目友人帳』を中心とする「妖怪」にまつわる話を、本学の面接授業をご担当されている2名の先生がお話します。

- テーマ　**「マンガ学」への誘い**
- 日時　2026年12月 6日（日）13：20～16：00 （12：40開場）
- 会場　熊本大学工学部百周年記念館（熊本市中央区黒髪2丁目39－1）
- 定員　150名、先着順、無料
- 講演１**「マンガ雑誌とマンガ産業のビジネスモデル」**池川　佳宏　准教授（熊本大学）
- 講演２**「妖（あやかし）マンガの系譜　―緑川ゆき「夏目友人帳」を中心として―」**
  鈴木　寛之　准教授（熊本大学）

申し込みはこちら
のフォームから

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

事務室からのお知らせ　①



学生証の顔写真の登録について

撮影から時間が経過した顔写真の学生証が多く見受けられます。長期間　顔写真を更新されていない方は、個人が判別できる写真の再登録をお願いします。また、顔写真未登録の方も登録をお願いします。

【登録方法】
正面向き、上半身、無帽、６か月以内に撮影した個人を判別できる写真をご用意ください。以下の2つの方法から顔写真の登録ができます。

①システムWAKABAによる登録
「教務情報」→「学生カルテ」画面右側の「顔写真を設定」によりご登録ください。下記により登録可能な期間をご確認ください。

②郵送での登録
「写真票」(システムWAKABA「キャンパスライフ」→「各種届出・申請様式」より入手)を一般書留または簡易書留にて本部学生課出願登録係へ送付してください。

登録方法	① システムWAKABA	② 郵送
顔写真が未登録	いつでも可	いつでも可
顔写真が登録済	学生証の期限切れ2ヶ月前より登録可 ▼学生証有効期限が2027年3月末の方 登録期間：2027年2月1日～3月25日	いつでも可

気象警報発令等に伴う臨時閉所の対応について

台風の接近などに伴い、熊本市に「避難情報等」が発令された場合、熊本学習センターは臨時閉所します。また、避難指示等以外でも臨時閉所する場合もあります。

※対象となる「避難情報等」
- 避難指示（警戒レベル4） --　土砂災害については、熊本市中央区が含まれる場合に限る
- 緊急安全確保（警戒レベル5）
- 暴風警報
- 暴風特別警報

なお、避難情報等が解除された場合には、次のとおり対応します。

警報解除の時刻	閉所の処置
午前７時までに解除	平常どおり開所
正午までに解除	解除から2時間後に開所
正午までに解除されない	終日閉所

熊本学習センターのウェブサイト参照

※気象状況、停電状況等によっては、ウェブサイトでの新たな告知や電話照会への対応ができない場合があります。安全第一のため、何卒ご了承ください。

事務室からのお知らせ　②

● 学生証の発行について

学生証の発行は所属の学習センターで発行できますが、熊本学習センターでは予約制になっています。前日までに申し込みフォームでお申込みの上、ご来所ください。
お申込みフォームや、郵送交付の依頼方法も含めて学習センターのサイトに明記しておりますので、ご参照ください。

※全科履修生の学生証は2年ごとの更新になります。



● キャンパスメールを確認しましょう

システムWAKABAで確認できるキャンパスメールには修学関連の大切な連絡が届きます。定期的に確認しましょう。キャンパスメールは、普段ご利用のメールアドレスに自動転送ができます。
詳しくは、システムWAKABAのキャンパスライフー＞附属施設・情報システムをご覧ください。

● 熊本学習センターのウェブサイトをチェック！

証明書発行、無線LANの申請、サブレ・学習相談の情報など熊本学習センターのウェブサイトは、情報満載です！「こんな時どうしたらいいんだろう」の時はウェブサイトで探してみましょう。サークルなどの開催日については、センタースケジュールで確認ができます。



Check!

SCHEDULE

● Web単位認定試験操作体験会開催のお知らせ

パソコン操作が苦手な方、初めての受験で不安な方はぜひご参加ください。受験場所が学習センターにしている方は参加してください。

① **2027年 1月 9日(土)　10:30～11:30**
② **2027年 1月13日(水)　10:30～11:30**

お申込み方法：電話（096-341-0860）
メール（sc-kuma@ouj.ac.jp）

● 認定心理士についての説明会開催のお知らせ

認定心理士の資格申請に必要な科目履修についてなどを説明します。これから認定心理士の資格取得をご検討の方、是非ご参加ください。詳しくは右側のリンクボタンよりご参照ください。

2027年 1月 9日(土)　14:00～15:00

年末年始休業・臨時閉所日のお知らせ

年末年始の閉所日
2026年12月26日（土）～2027年1月5日（火）

熊本大学の入試などによる臨時閉所日
2027年1月16日（土）、17日（日）
2月25日（木）
3月12日（金）、3月31日（水）

視聴図書室・閉室のお知らせ

2027年３月27日（土）に「2026年度第2学期卒業証書・学位記授与式」を執り行います。それに伴い視聴学習・図書室は終日閉室にいたします。

最新の情報は、学習センターウェブサイトの「センタースケジュール」をご確認ください。